

# 船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.20

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年3月4日 文責:安生昌弘

## ◆ 小学校の学級編制

3月になると、学校では来年度の計画づくりが本格化します。様々なことを法令に則って計画していくのですが、その一つに各学年の学級が何クラスになるのかという「学級編制」があります。現在、小中学校は基本的に「40人学級」です。この制度では、学年に81名の児童がいると3クラス編制(27・27・27人)になり、



120名まで同じ編制(40・40・40人)となり、121名で4クラス(31・30・30・30人)となります。1名違っただけで1クラス違ってくるのです。このクラス数により教員が配置されますので、先生の数も変わってきます。ですから、転校する時は早めにお知らせ頂きたいのです。

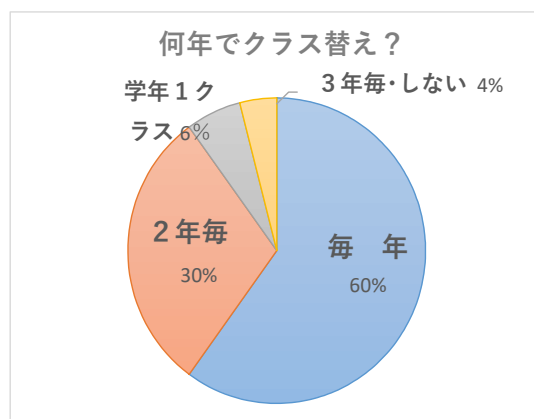
昭和55年から40年以上続いていた「40人学級」の制度が昨年3月に大きく動きました。国の基準が改正され、令和7年までに順次小学6年生まで「35人学級」になるよう決まりました。

令和4年度は小学3年生までが「35人学級」で編制することとなります。

「おや？船小では100名ちょっとの学年でも4クラスになっているなあ」とお気づきの方もおられると思います。実は、福島県独自の施策で平成14年から30～33人での学級編制を行ってきました。それで国の基準より多いクラス数となっているのですが、増えた分の学級担任は、県に配置して貰わなければなりません。報道でもあるとおり、現在は教員志望の若者が少なく、深刻な教員不足です。担任がないという学級がないようにしなければならぬと考えています。

## ◆ クラス替えと持ち上がり

3月になると、子どもも親御さんも来年度のクラス替えや誰が担任なのかということに関心が高まるのではないのでしょうか。本校は1, 3, 5年生の時にクラス替えをしていますが、全国的には少数派のようです。毎年のクラス替えのメリットは「人間関係の固定化による子どもの成長への妨げを防ぐ」となっていますが、背景には「いじめ問題の防止」があるようです。一方で、2年毎のメリットは「級友と慣れ親しむことができる」なのでしょう。



担任の「持ち上がり」についても両面があります。子どもも人間ですから、はっきりとした理由もなく、どうしても担任の先生と反(そ)りが合わないこともあります。多くの先生と出会うことも大切です。一方、持ち上がりをする、先生は、一人一人を良く理解して2年間かけて、ゆっくり丁寧に指導することが出来ます。学校では、校内の仕事の役割分担等、様々なことを考慮して適材適所で学級担任を決めていくこととなります。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。